Daitoku-ji Temple

# 大徳寺

## 方丈及び玄関ほか３棟

京都市北区
方　丈｜江戸時代　寛永12年（1635）
玄関・廊下・庫裏　附 廊下
｜江戸時代　寛永13年頃（1636頃）
仏　殿｜江戸時代　寛文5年（1665）

事業期間：令和２年11月～令和８年10月（予定）

大徳寺は、臨済宗大徳寺派の大本山で龍宝山と号します。鎌倉時代に大燈国師（宗峰妙超）が洛北紫野に結んだ大徳庵を始まりとします。桃山時代から江戸時代にかけては多くの有力者の支持を得て、茶の湯の文化とともに繁栄しました。明治維新後は最盛期に比べ規模を縮小しましたが、２つの別院と22の塔頭、そして禅宗伽藍が広がる景観を今日も伝え、国宝・重要文化財に指定された多数の建造物や美術工芸品、特別名勝の方丈庭園を有します。

方丈　修理前　外観

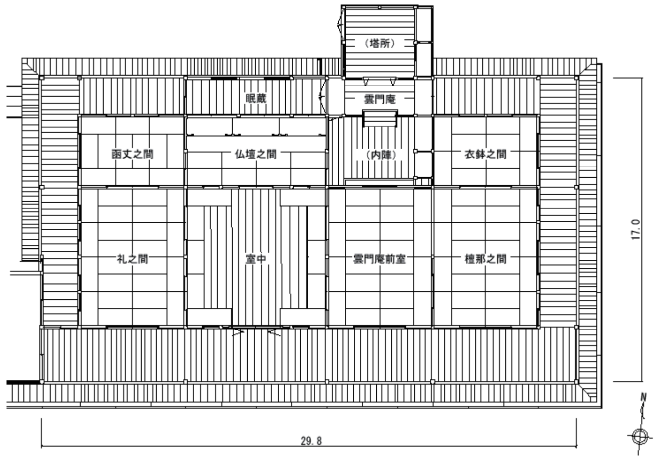
### 方丈　国宝　《修理中》

方丈は伽藍の最も奥に位置します。住宅に近い形式の建物で、本来住持の住まいとして用いられるものでしたが、後に接待や行事の場としても使用されてきました。現在の建物は、大燈国師300年忌に伽藍が整備されることに併せて、寛永12年（1635）に、大徳寺156世江月宗玩が勧進し京都の豪商後藤益勝の援助により建てられました。桁行29・8メートル、梁間17・0メートル、入母屋造、桟瓦葺（一部檜皮葺）の建物で、南を正面とします。平面は前後4室の八間取形式で構成されており、そのうち1室を大燈国師を祀る「雲門庵」とし、一部を北側に突出させます。内部は一部を除いて畳敷とし、各室境には、狩野探幽によって描かれた障壁画（重要文化財）が入ります。また、南面と東面には特別名勝の庭園を設けます。

方丈　屋根の組立状況（土居葺完了）

**修理の内容**

前回の根本的な修理は昭和7年（1932）に行われました。今回は、約90年ぶりの半解体修理となります。主な破損状況は、建物全体の傾きで、特に正面の柱が大きく傾斜していました。建立当初の屋根は檜皮葺であったと考えられますが、明治17年（1884）頃に桟瓦葺に改められ、長期にわたる瓦の荷重が軸部に影響を与えていました。修理では、屋根から順に解体し、柱の建て起こしと補強を行いました。桟瓦葺工事では屋根荷重を軽くするため、空葺工法を採用します。室内では床廻りに見られた腐朽箇所の部分的な取替、壁の塗直しなど行いました。解体した部材を補修して元の位置に戻し、組立を進めています。

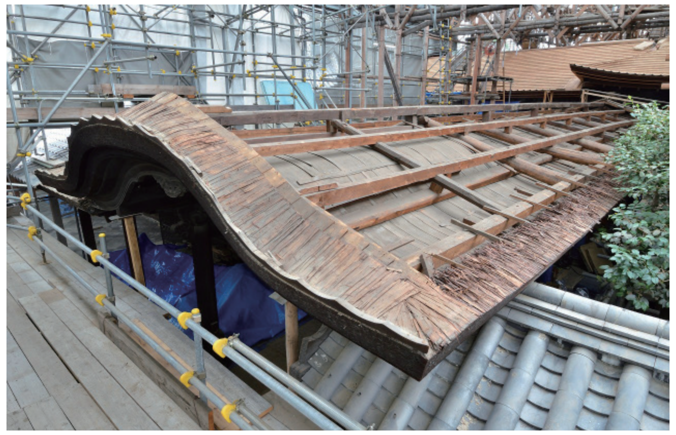


方丈　平面図

方丈　内部の組立状況

### 玄関　国宝　／廊下・庫裏 附 廊下・仏殿　重文　《修理中》

方丈の周囲には玄関、廊下、庫裏附廊下が建ちます。いずれも方丈が建立された翌年の寛永13年（1636）頃に建てられました。修理前の屋根は、方丈と同じ桟瓦葺です。仏殿は、入母屋造、本瓦葺の建物で、周囲に裳階を付けます。伽藍の主要な建物としては最も新しく、寛文5年（1665）に建てられました。いずれも前回の解体修理は昭和7年頃と考えています。


玄関　屋根の解体状況

**修理の内容**

庫裏附廊下は、桟瓦葺屋根に破損や劣化が見られることから、瓦の葺替を行います。玄関・廊下は建立当初の屋根が檜皮葺であったことが明らかとなったため、復原します。また、雨染みや経年劣化の見られる壁や木部も解体し、補修を行います。仏殿は葺土の流出による瓦のずれが見られたため、本屋の屋根葺替を行いました。また、亀裂が見られた漆喰壁は塗直しを行いました。今後は、堂内来迎壁後面の障壁画のクリーニングを行います。

仏殿　屋根葺替完了の状況